被災者への義援金、市への寄付金

熱い支援に感謝

東日本大震災で大きな被害を受けた本市に、義援金や市への寄付金が全国各地から寄せられました。

7月11日～8月10日までに受け付けた分は次のとおりです。（敬称略）熱い支援ありがとうございます。

義援金

■県外■
【千葉県】▼関口英行
【東京都】▼五味秀春
【神奈川県】▼菅野恵▼神林洋行

■市内■
【企業・団体】▼久慈市中核農家クラブ

■口座振替■
【個人】▼イワセ・ヒデオ
【その他】▼匿名1件

久慈市に寄せられた義援金は8月10日現在、1061件、8506万3332円となっております。

寄付金

■県外■
【東京都】▼一般社団法人東北漁業再開支援基金・希望の烽火▼牛島一平
【その他】▼匿名1件

■県内■
【盛岡市】▼㈱あさ開

■市内■
【企業・団体】▼伊藤多喜雄

募集 義援金ご協力を

市では、久慈市地震災害義援金を募集しています。この義援金は、市内の被災した方々に分配されます。皆さんのご協力をお願いします。

▼受付期間
平成25年3月31日まで

▼受付場所（現金）
①社会福祉課（市役所1階）
②山形総合支所
③各支所（宇部、侍浜、山根）

▼その他の受付方法
①現金書留…宛先はこちら
〒028－8030
久慈市川崎町1番1号
久慈市役所社会福祉課
②口座振込…入金前に社会福祉課までご連絡をお願いします。振込先はこちら
岩手銀行久慈中央支店
普通預金2057188
久慈市地震災害義援金

問社会福祉課 ☎52－2119

義援金の交付状況

市では、全国各地から久慈市に寄せられた義援金を、人的被害、住宅被害等を受けた被災者に対して、見舞金として交付しています。9月1日現在での被災者への義援金の交付状況は次のとおりです。

被害区分		市見舞金	対象件数	合計額
人的被害	死亡	13万円	4件	52万円
	行方不明	13万円	2件	26万円
	重傷	8万円	2件	16万円
住宅被害	全壊	14万円	69件	966万円
	大規模半壊	11万円	31件	341万円
	半壊	9万円	181件	1,629万円
	その他	10～7万円	11件	62万円
個人事業被害		5万円	1,062件	5,310万円
合計			1,362件	8,402万円

TOPICS 支援関係

関係者が見守る中、杭を打つ山内市長（中央）

早期完成の願いを込めて

田野畑村以北で初となる三陸沿岸道路の用地幅杭設置式は7月26日、長内町地内で行われ、工藤栄吉三陸国道事務所長ら関係者12人が出席しました。工藤所長はあいさつで「通常2～3年を要する作業を7～8カ月で進めることができたのは地域の皆さまのおかげです。今後も一日も早い復興のために地域、市町村、県、国が一体となって連携しながら全力で取り組みます」と決意。参加者は道路の早期完成の願いを木づちに込めて杭を打ちつけました。用地幅杭の設置後は地権者と個別に用地の協議・買収が行われ、年度内の着工を目標に事業が実施されます。

※可能な限り、支援者からの申し出などに基づいて掲載しましたが、名称などに間違いがあることも考えられます。申し訳ございませんが、ご了承くださいますようお願いいたします

記念すべき5万人目の欠畑伸太くん（右から2番目）

再出発から1年を迎え 感謝と決意

まちなか水族館5万人

もぐらんぴあ・まちなか水族館（宇部修代表）は7月30日、入館者5万人を達成。被災し、市街地で再出発した昨年8月5日から約1年で、喜びの節目を迎えました。

5万人目となったのは、欠畑伸太（しんた）くん（久慈湊小3年）。突然の出来事に恥ずかしそうにしながら宇部代表から認定証と記念品を受け取りました。

伸太くんは「びっくりしたけどうれしいです」と照れ笑いを浮かべていました。

宇部代表は「多くの皆さんから様々な支援をいただいたおかげです。もっと楽しい水族館になるよう頑張ります」と感謝と決意を述べました。

書いた魚は名前を当てた子どもにプレゼント

久慈ゆかりの魚を解説

目からウロコトークショー

8月6日、久慈グランドホテルでさかなクンのトークショーが開催されました。トークショーでは、この日潜った久慈湾の様子の解説や、久慈に縁のある魚の絵を描き、その生態などを説明しました。さかなクンの明るく軽快なトークに子どもたちは目を輝かせていました。

TOPICS 支援関係

まちなか水族館復旧へ支援相次ぐ

支援物資を受け取り握手を交す宇部代表（右から2番目）

どんどん使って―

6月20日は、長机10個とパイプ椅子30脚がもぐらんぴあ・まちなか水族館に届けられました。寄贈を行ったのは、盛岡市を拠点に被災地支援を行っているSAVE IWATE（セイブ イワテ）（寺井良夫代表）。同会では、県内外から支援物資を受け入れ被災者へ物資の支援を行っています。同館では、展示スペースの拡張に伴い不足していた椅子と机の調達について、いわて未来づくり機構に打診していました。

支援の品を届けた同会ボランティアスタッフの鈴木竜一さんは、「寄贈された物品は、大事にして奥の方にしまいがちですが、もともと自分の物であったかのようにどんどん使ってほしいです。」と思いを込めていました。物資を受け取った宇部代表は、「支援について、話が早く進んで驚いています。今日頂いた物資は体験コーナーの充実や、イベントなどで活用したいです」と笑顔で話していました。

支援物資の目録を受け取る宇部代表（右）

ミクロにも興味を

7月23日は、精密顕微鏡など6種類11セットが国内の顕微鏡メーカー26社でつくる日本顕微鏡工業会（笹宏行会長）から贈呈されました。

震災後、同館では顕微鏡が無かったため①魚類等の病気を調べる方法が無い②水中の微生物や受精卵の観察などは観察することが難しい―という状況でした。そのため、顕微鏡の支援についても同機構に協力をお願いしていたところ、今回同工業会会員の6社から支援いただくことになりました。

この日は、同工業会から長野主税（ちから）事務局長が来館し、「まちなか水族館でお役立ていただき、子どもたちがミクロの世界に興味を持つきっかけになればうれしいです」と宇部代表に目録を手渡しました。

宇部代表は、「もぐらんぴあの復興にも大いに役に立つものです。いろんな体験に有意義に使いたいです」とお礼を述べました。

TOPICS 支援関係

真心のこもった義援金を受け取る宇部代表

水族館の復興のために

8月1日、一戸小学校の児童をはじめ20人がまちなか水族館を訪問。「運動会の時に自分たちで集めました。水族館の復興のために役立ててください」と児童会長の卯花彩妃さんから義援金38,011円が宇部修代表に手渡されました。